

修学旅行で模擬国連を体験

1月23日(金)、シンガポール国立大学(以下NUS)で模擬国連を行いました。事前準備として、時事英語の授業の中でそれぞれの担当国についての基本的なリサーチから、国際的な問題解決の方法に至るまで、時間をかけて調査・議論を行い、満を持して本番に臨みました。当日は、まず大学内の学食でNUSの学生達と昼食を取り、3つの部屋に分かれ、英語によるSGH課題研究プレゼンテーションを行い、私たちの研究内容を知ってもらいました。その後行われた模擬国連では、How to Reduce Child Mortality(子どもの死亡率を低減するには)という議題について、それぞれの国の立場に立った意見を英語で主張しました。はじめは緊張していましたが、NUSの学生たちが話し合いがスムーズに進むようにサポートしてくださる中、お互いの意見に耳を傾け、相互理解に努めることができました。事前に担当国の政治や経済、教育などについてしっかりと調べていたので、他国の全く別のアイデアなどからも利点をうまく取り入れることができ、最終的には細部まで考え抜いた決議案が出来上がりました。準備は大変でしたが、それを超えるほどの達成感を味わうことができ、充実した時間となりました。

大変でしたが激論の末決議案がまとまった時は嬉しかったです。



○模擬国連とは?

世界の国々の「国連大使」になりきって決議案を出し、他の国と交渉する教育活動

○担当国

A、B、Cの部屋に分かれ、各部屋2～3人のチームで1国を担当しました。

南アフリカ、フランス、スイス、アメリカ合衆国、パキスタン、ソマリア、中国、ブラジル、アフガニスタン、日本 シンガポール(NUSの学生が担当)

○司会進行

NUSの学生による

全国SGHフォーラムに参加

12月15日(土)東京で行われた全国SGHフォーラムに平和1班から代表2名(2年6組岩井沙那さん、清川愛実さん)と留学生のシャフィカさんが参加しました。全国SGHフォーラムとは、日本全国のSGH指定校が一堂に会し、テーマごとの交流会やポスターセッションを英語で行います。本校は、「An education for denuclearization by using the supplementary material—to close the gap of understanding about the atomic bombs—補助教材を用いた非核教育の方法—原爆に関する認識の差を埋めるために—」というタイトルで、先輩方の研究を引き継ぐ形で発表を行い、高い評価をいただきました。

【感想】

多くの人の前で自分たちの意見を発表することはとても緊張したが、聞いている人の心に響く発表ができたのではないかなと思う。ただ、他校の発表を聞くと自分たちの研究内容が浅いと感じたので、もっと時間をかけて深く研究していかなければならないと思った。

また、意見交換会では、同世代の人が社会問題をどう考えているのかを知ることができたし、英語のみを使う環境も新鮮で面白かった。ここで感じたことを今後の研究にしっかりいかしていきたいと思う。



